

神大寺遺跡 (第2次) 南堀江1丁目

5月22日～5月30日 学童保育施設建設に伴う緊急調査

海岸平野の微高地に立地する遺跡です。第1次調査では古墳時代の古式土師器がまとまって出土しています。

今回は建物の基礎で破壊される部分のみ調査を行いました。柱穴・溝・土坑が見つかり、古墳時代の土師器と中世の山茶碗・常滑焼等が出土しました。



溝



調査区全景

釜垣内遺跡 (第3次) 小岐須町

9月12日～10月5日 仮設道路建設に伴う緊急調査



調査区全景

鈴鹿山脈麓の扇状地上で、御幣川の左岸に立地する遺跡です。新名神自動車道建設に伴う仮設道路工事に先立って発掘調査を行いました。高速道路の本体部分については三重県埋蔵文化財センターが先行して発掘調査を行っており、縄文時代の狩猟用の落とし穴、鎌倉時代の溝・掘立柱建物・土壌墓などが見つかりました。

今回の調査では、若干の柱穴・土坑および溝を確認しましたが、遺物の出土がなく詳しい性格は不明です。



発掘調査遺跡位置図 (1:100,000)

この地図は国土地理院発行の5万分の1地形図「四日市」「亀山」を使用したものである。

関連講演

博物館入門講座「土師器と古墳時代史」 講師：早野浩二さん(愛知県埋蔵文化財センター) 3月23日(土)午後2時から
スライド説明会「門山遺跡(第3次)・木曾田遺跡(第2次)」 講師：当館職員 5月18日(土)午後2時から
「磐城山遺跡(第5次)・平野遺跡(第3次)」 講師：当館職員 6月9日(日)午後2時から



鈴鹿市考古博物館

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 鈴鹿市国分町224番地 TEL059-374-1994 FAX059-374-0986
URL <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/> E-mail kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp

速報展

発掘された鈴鹿2012

2013年3月22日(金)～6月23日(日)



国分西遺跡(国分寺跡第36次調査) 国分町 1月23日～2月28日 個人住宅建築に係る緊急調査

鈴鹿川左岸の高位段丘上、伊勢国分寺跡と尼寺推定地の間に立地します。国分寺の加藍地南東隅から約125mの地点です。

住宅建築に先立つ小規模な調査でしたが、2条が平行する東西溝、竪穴住居1棟、南北溝3条、土坑1基、柱穴(ピット)多数を検出しました。東西溝は幅約3m離れてほぼ並行し、溝の幅はいずれも1.5m、深さ0.5mと同規模で、底面は細長い土坑を連続したような様相を呈しています。南側の溝の埋没後に竪穴住居が営まれ、その竪穴住居は奈良時代の範疇に収まると考えられます。よって、この2条の溝は奈良時代前半あるいはそれ以前にも遡るものとみられます。その性格としては築地の基底部、道路遺構または若干の時間差をおいて掘られた区画溝などいろいろな可能性が考えられますが、いずれもこの地区に重要な施設が存在したことを伺わせます。竪穴住居などが廃絶した平安時代から鎌倉時代にかけて整地が行われたらしく白磁や灰釉陶器、山茶碗を含む層で覆われていました。この整地層に混入して金属製の神像が出土しています。また、南北溝のうち2条は平安時代の遺物を含み、深い溝は現代瓦を含み地境と排水の機能を兼ねた新しいものでした。



竪穴住居



神像出土状況



竪穴住居遺物出土状況



墳丘墓周溝からの二重口緑壺出土状況



墳丘墓周溝



古墳時代前期竪穴住居



中世井戸群



調査区全景 (南から)



調査区全景 (北から)



土師器二重口緑壺

磐城山遺跡 (第5次) 木田町 6月25日～2013年1月11日 農地整備に先立つ緊急調査

鈴鹿川左岸の高位段丘上に立地する弥生時代～古墳時代にかけての遺跡です。これまでの調査で6,000㎡が調査され100棟以上の竪穴住居が確認されています。今回の調査面積は620㎡ですが、遺構密度は極めて高く43棟の竪穴住居が重なり合うように検出され、うち14棟が弥生時代後期から古墳時代初頭にかけてのもの、19棟が古墳時代中期から後期にかけてのものであと10棟は不詳です。遺物の出土は多くありませんでしたが、古墳時代の竪穴住居から祭祀用の滑石製剣形模造品が出土しました。



滑石製剣形模造品



調査区全景 (↑北)



重複する竪穴住居



竪穴住居の壁溝検出状況



調査区全景 (東から)

木曾田遺跡は、鈴鹿南西部丘陵裾の北向き緩斜面に立地します。歴史地理学的に推定されている伊勢国府域の南東端部にあたります。調査は学校建築に先立ち、第1次は外周の擁壁部分を、第2次は建物の基礎部分を調査対象として実施しました。調査の結果、調査区内を谷状の自然流路が流れ、その間の微高地に屋敷地の区画とみられる地割溝が掘られ、掘立柱建物・井戸・土坑・土坑墓・火葬土壇などが多数見つかりました。その多くは山茶碗や羽釜などを伴い鎌倉時代に降るものです。

出土遺物には瓦・緑釉陶器などの施釉陶器・黒色土器など国府との関連をうかがわせるものもありますが、平安時代に遡る遺構は掘立柱建物と井戸程度でした。



掘立柱建物



井戸



調査区全景

平野遺跡 (第3次) 平野町 11月21日～2013年1月10日 宅地造成工事に先立つ緊急調査

平野遺跡は、鈴鹿川右岸の鈴鹿川に沿って延びる舌状台地の中央部に所在します。これまでの調査では中世の集落と弥生時代の方形周溝墓群が確認されています。また、隣接する富士遺跡では奈良・平安時代の集落が確認され、金属製品の铸造がおこなわれ、奈良後期以降の伊勢国府との関連が推定されています。

今回の調査では、宅地造成に伴い影響を受ける道路と擁壁部分を調査しました。その結果、竪穴住居3棟、土坑・柱穴多数および道路状遺構を検出しました。竪穴住居は一辺3m余りと小型のもので、出土した須恵器・土師器から奈良時代のものと考えられます。道路遺構は4mの間隔において2条の側溝が並行し、その間の路盤にはいわゆる波板状圧痕と呼ばれる基礎工事の浅い土坑が連続して掘られています。この土坑と溝からは山茶碗が出土しており、鎌倉時代に使用されていた道路とみられます。

伊勢国府跡 (長者屋敷遺跡第30次) 広瀬町 12月1日～2013年2月28日 史跡範囲確認のための学術調査

平成4年から継続している長者屋敷遺跡(史跡伊勢国府跡)の範囲確認調査です。遺跡の北半分で確認されている一辺120mの方格地割は東西4ブロック、南北3ブロックが確認されています。その西側120mにおいても南北方向の溝が見つかることから、さらに地割が西に広がる可能性があります。今回の調査では、その場合に北辺の東西溝が想定される位置に調査区を設定しました。しかし、溝等の遺構は全く見つかりませんでした。

境谷遺跡 (第3次) 国分町 9月3日～9月7日 市道改良工事に伴う緊急調査

境谷遺跡は鈴鹿川左岸の舌状台地上に立地する、弥生時代から中世にかけての複合遺跡です。また、遺跡の北側には富士山古墳群の一部が分布しています。

調査は道路の拡幅部分2か所で、溝状の調査区を設定し調査しました。東側の調査区は重機による攪乱を受けていましたが、かろうじて残っていた古墳の周溝の一部を確認しました。底部には円筒埴輪や形象埴輪の破片が堆積していました。すでに墳丘を失い位置が分からなくなっていた富士山4号墳の周溝とみられます。西側の調査区からは溝・土坑が見つかりましたが時期や性格が不明です。



竪穴住居



道路遺構



竪穴住居



調査区全景



古墳周溝